

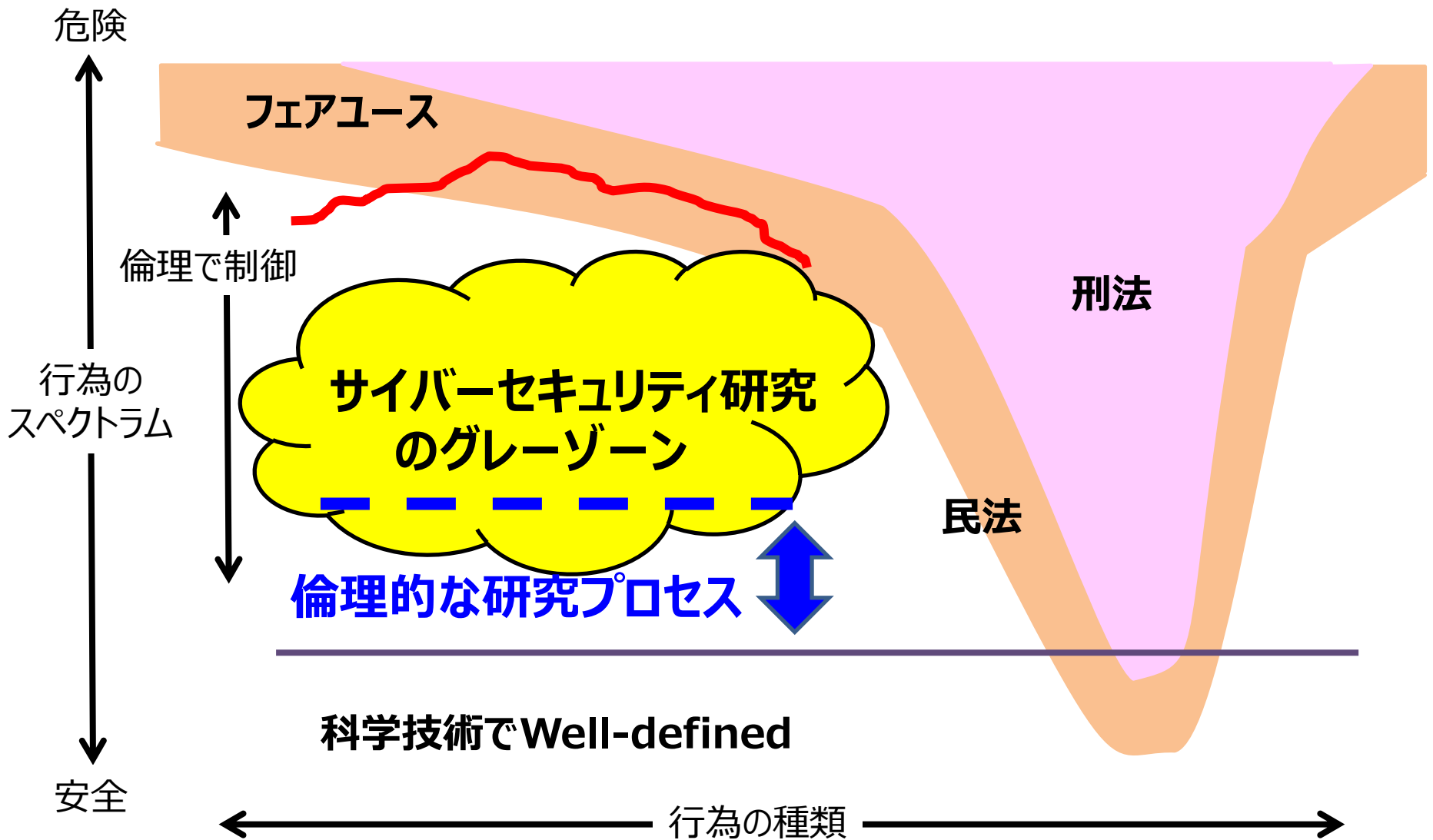
サイバーセキュリティ研究における 倫理的な研究プロセスの普及啓発について

～「サイバーセキュリティの研究倫理を考えるWG」の取組み～

2019年1月24日

日本学術振興会（JSPS）
サイバーセキュリティ 第192委員会
サイバーセキュリティの研究倫理を考えるWG

問題領域の構造(©篠田陽一@JAIST)



サイバーセキュリティ研究における倫理的な研究プロセスとは

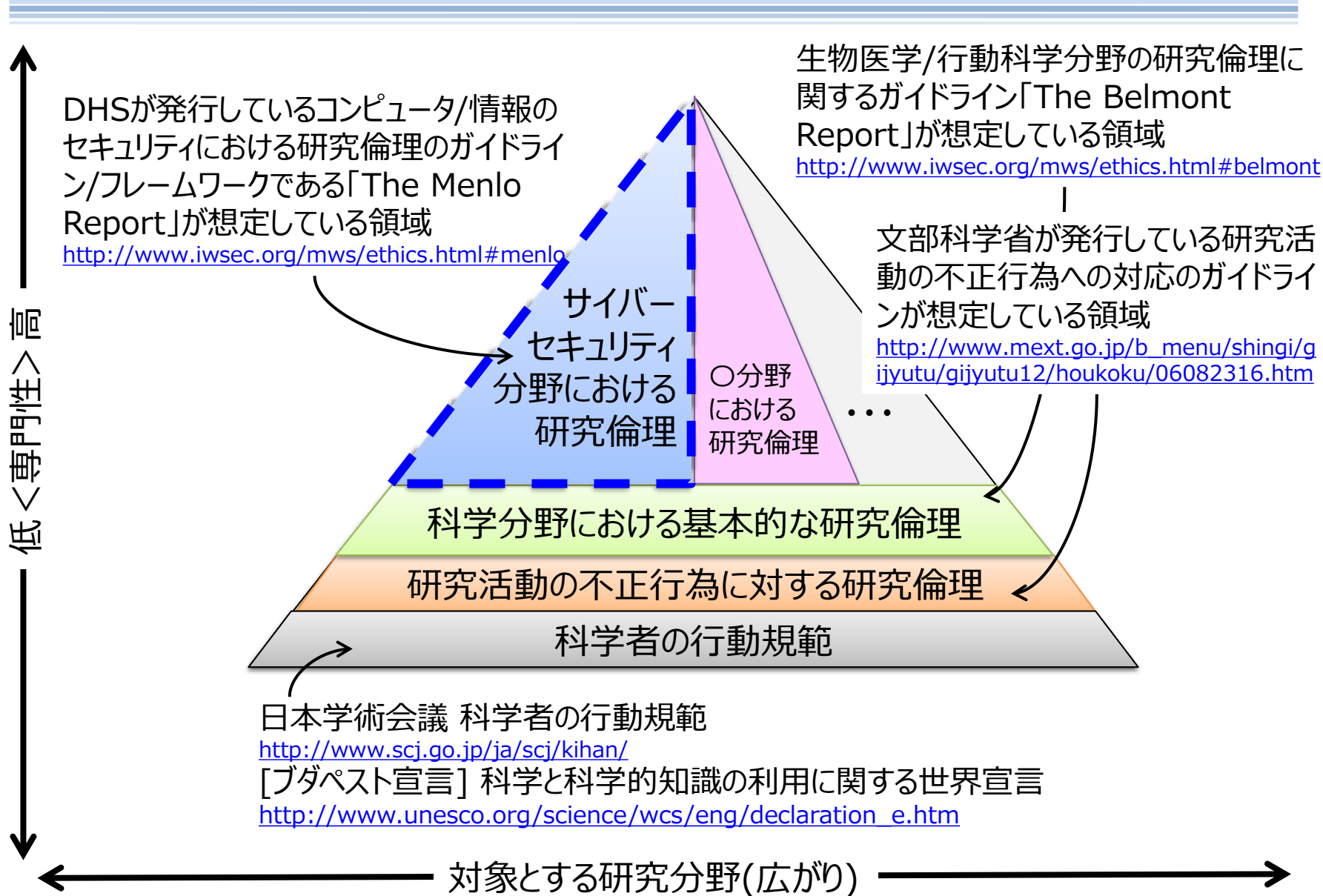
● 背景

ICTの進展にともない、誰も踏み入れたことがない、前例が十分でない倫理的領域を取り扱う機会が出てきた。これに伴い、ステークホルダ(利害関係者)の明確化、インパクトの見積もり、リスクの最小化努力、Responsible disclosure(研究成果の社会的な影響を考慮して、事前に必要な手続きを踏んだ後、研究成果を開示すること)を実施し、自身の研究を研究倫理的観点から実践して論じることの必要性が高まってきている。

● サイバーセキュリティ研究における倫理的な研究プロセスとは

サイバーセキュリティ研究における研究倫理とは、自身の研究を研究倫理的観点から実践して論じることである。そのために必要となる適切な手続きを倫理的な研究プロセスと呼び、本WGは、サイバーセキュリティ研究における倫理的な研究プロセスの普及啓発を目的としている。

サイバーセキュリティ研究における倫理的な研究プロセスとは



課題認識と対応方針

● 課題認識

これまでの先行的な取り組み※1から、サイバーセキュリティ研究における倫理的な研究プロセスの普及啓発にあたっては、各学会/研究会が自律的に倫理的な研究プロセスを実践できることが望ましく、そのためには投稿論文の書き方で解決できる問題と、研究そのもののアプローチの検証を通して解決できる問題に取り組む必要があることがわかってきた。

※1 <http://www.iwsec.org/mws/ethics.html>
<http://www.iwsec.org/css/2018/ethics.html>

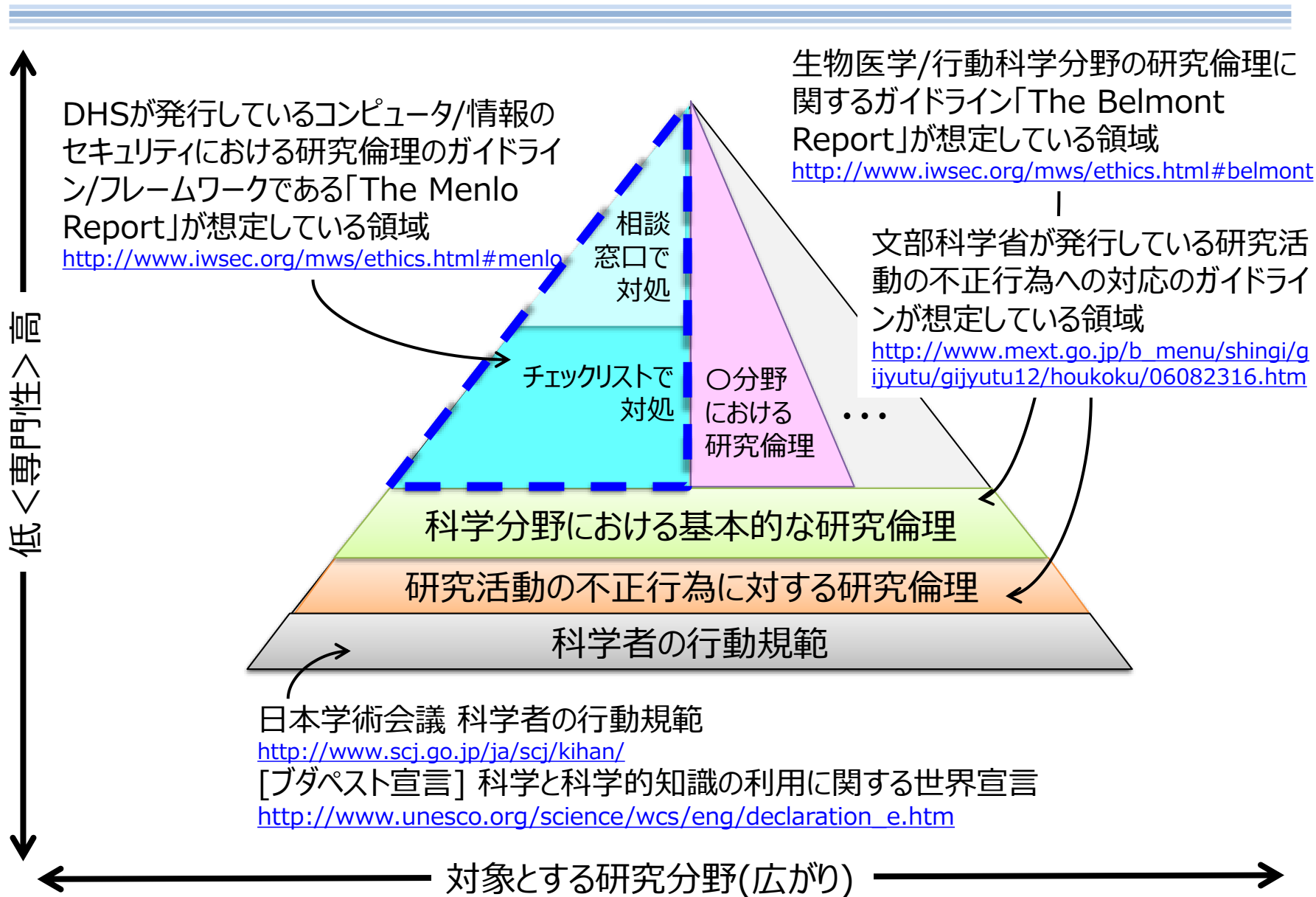
● 対応方針

先行して積極的に取り組む学会/研究会に対して、それぞれの課題に対して次に示す対応策の検討・試行を依頼する。

- **投稿論文の書き方で解決できる問題**
⇒論文投稿時に参照する「チェックリスト」の作成
- **研究そのもののアプローチの検証を通して解決できる問題**
⇒研究会/シンポジウムに研究倫理に関する相談窓口の設置

また、その結果を他の学会/研究会にも展開して、実践した結果のフィードバックを受け、本WGとしてのリファレンスを取りまとめる。

課題認識と対応方針



活動計画

フェーズ	投稿論文の書き方で解決できる問題 ⇒論文投稿時に参照する「チェックリスト」の作成	研究そのもののアプローチの検証を通して解決できる問題 ⇒研究会/シンポジウムに研究倫理に関する相談窓口の設置
フェーズ1 ～2019年前半	先行的な研究会に、チェックリスト作成と試行を依頼する。	先行的な研究会に、研究倫理に関する相談窓口の試行的な設置を依頼する。
フェーズ2 2019年後半～	フェーズ1の取組みで作成されたチェックリストを国内の学会/研究会に紹介するなどを通して流通させる。	フェーズ1の取組みを国内の学会/研究会に先行事例として紹介し、研究倫理に関する相談窓口設置・運営の検討を依頼する。
フェーズ3 2020年～	フェーズ2までに協力を得られた個々の学会/研究会で作成されたチェックリストを整理し参考チェックリストとして、本WGから展開する。	フェーズ2までに協力を得られた個々の学会/研究会で検討された相談窓口の在り方を整理し、本WGとして推奨形態を展開する。

相談窓口の実装例 ～CSS2018研究倫理委員会/相談窓口～

- CSS2018に論文投稿を検討している研究者に対して、研究倫理に関する相談窓口を設置
- 相談者は相談フォームに基づいて問い合わせ、相談窓口担当が回答
 - 回答内容は過去の事例や世の中の状況を鑑みて“アドバイス”を行うものであり、“お墨付き”を与えるものではない
 - 相談内容は基本的には窓口担当に閉じるが、窓口担当で扱いきれない場合はアドバイザーにも共有し議論する
- プログラム委員会からの問い合わせにも回答する場合もある

